



日本人にかえれ 出航の地・宗像から世界へ

出光佐三展

宗像から世界へとこぎ出した人物

2012年の夏に、百田尚樹さん著の『海賊と呼ばれた男』が出版され、一躍脚光を集めました。この本の主人公は、「赤間宿」(当時の宗像郡赤間村)に生まれた出光興産の創始者・出光佐三をモデルにしています。

出光佐三と宗像

佐三は、世界で活躍しながら、宗像人であることを誇りにし、故郷を大切に生きてきました。宗像に対する思いや宗像にまつわるエピソードをいくつか紹介しま

宗像神社の復興

昭和12(1937)年2月、貴族院議員に選ばれた後、参拜のために宗像神社を訪れたとき、拝殿を見ると、屋根は壊れ、ところどころにトタンがさしてあり、腐れかかった場所もありました。この光景を目の当たりにした佐三は、ひどく心を痛めました。早く元の姿に戻さなくては

宗像神社史の刊行

はと思い、昭和17(1942)年11月、宗像神社再建のため、佐三が中心となり「宗像神社復興期成会」を結成しました。

沖ノ島の学術調査

宗像神社再建に向け動き始めた佐三は、政府高官から「気持ちは分かるが、物事には順序があり簡単なことではない。しかし、『宗像神社史』を作ったら、日

昭和の大造営

島(せいし)の跡を発見。その後、2度にわたる学術調査を経て、昭和33(1958)年に「沖ノ島」を、昭和36(1961)年に「続沖ノ島」を、昭和52(1977)年に「宗像沖ノ島」を刊行しました。



84歳の時の出光佐三

本の記事に於いてあらゆること分かるぐらいに、神社史としては最高のものとなるだろう。それがあれば、何も運動しなくてもひとりで解決する」との助言を受け、「宗像神社史」の刊行に向けて、資料の収集、調査、編纂(へんさん)作業を実施しました。

タンカーの名称に見られる宗像の地名

出光が建造したタンカーの名称には、沖ノ島(島)丸、赤間丸、大鳴(島)丸、宮田丸、玄海丸、高宮丸のように、宗像の地名を冠したものが数多くみられます。

宗像との関係・出光社内の宗像大社

宗像神社史上巻発行後の昭和44(1969)年、佐三の悲願だった「宗像神社を往年の姿に戻す」の実現に向けて、辺津宮本殿の修復工事に着工します。修復は、総工費約10億円(当時)

出光の事務所や製油所などには、宗像大社が建立され、宗像三女神が祀(まつ)

問い合わせ先 郷土文化課 ☎(62) 2600

【出光佐三とは】

明治18(1885)年8月22日、宗像郡赤間村(現在の赤間)で藍(あい)問屋を営む父・藤六(とうろく)と母・千代(ちよ)の間に二男として生まれました。成長した佐三は、赤間小学校、東郷高等小学校、福岡商業高校を卒業後、商業教育の府として全国で2番目に設立された神戸高商へと進学。この神戸高商での4年間で、佐三は実に多くのことを学び、後の「人間尊重」「大家

族主義」といった経営哲学に大きな影響を与えました。神戸高商卒業後、個人商店の酒井商会へ丁稚(でっち)として入店。その後、淡路島の資産家・日田重太郎の援助を受け、明治44(1911)年、北九州市の門司に、出光商会を開店しました。幾多の困難に直面しても独自の経営哲学を貫き、創業100年を越え、現在の出光興産株式会社へとつながっています。



経営哲学に大きな影響を与えた 佐三の言葉 「人間尊重」(佐三謹書)

見学・相談会開催!

充実したサポート体制
●24時間スタッフ配置
●看取りまで安心した暮らし
●充実した食事・イベント

春の見学会

開催日
4月15日(水)・18日(土)・22日(水)
25日(土)・29日(祝)

☎0120-290-873

見学・相談会参加ご希望の方は、事前に電話にてお申込み下さい。

お客様との「ふれあい」を大切に安心な生活をサポート



敷地権利/(株)キューヘン

住所/〒811-3214 福岡県福津市花見が丘3丁目28番2号
ホームページを更新しました。九電ケアタウン 検索

【施設概要】■事業主体・運営会社/株式会社キューデン・グッドライフ東福岡■類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)■居住の権利形態/利用権方式■利用料の支払い方法/選択方式■入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護■介護保険/福岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設)■介護居室区分/全室個室■介護に関する職員体制/2:1以上